

[研究室だより] 都市マネジメント 研究室

経営ビジネス学科
長谷川 直樹

平成28年4月1日より、経営ビジネス学科でお世話になっております。宜しくお願い致します。

私は、愛知県出身で、地元の大学卒業後、建設コンサルタンツ会社に就職し、独立後も含め都市計画・まちづくりの仕事をしてきました。九州では、九州新幹線誘致のための将来ビジョンづくりから各駅の周辺開発の事業認可まで20年近くお手伝いしています。熊本駅、新八代駅、新玉名駅の基本構想と事業化検討を担当し、最近では新幹線諫早駅の市街地再開発事業の基本構想や新大村駅周辺整備構想をお手伝いしていました。熊本県内の人口5千人のまちでコンパクトな店舗共同化を実施したこともあります。飯塚市でも、クリーンセンター建設に伴う周辺開発計画や中心市街地活性化基本構想をお手伝いした経緯があり、この飯塚の地で都市マネジメントの研究と教育に従事できることを大変うれしく思っております。

赴任早々に熊本地震があり、甚大な被害に心が痛むとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。私も新幹線関連業務の関係で熊本に住んだ経験があり、熊本を第二のふるさとだと思っています。熊本地震のタイミングに九州に赴任したのも人生の中で大切な「つながり」であると感じており、熊本復興のために、精いっぱいのお手伝いをしていきたいと思っています。

私の専門分野は都市計画ですが、その中でも建築と都市基盤および地域活動などを一体的に事業化し運営していくマネジメントの実践と研究を実施しています。横文字で言えば、プロジェクト・マネジメントですが、個人的には「事業屋」の方が肌に合います。複雑な権利関係や利害関係の中で、不特定多数の幸せ向上のために事業を立ち上げるというまちづくりのプロジェクトは「ひと」が非常に重要であると感じています。

各分野の優秀な専門家が集まってもプロジェクトが進まないことは日常茶飯事です。各専門家の力が一番発揮できる体制と環境を考え、様々な関係者との合意形成を図っていき、限られた時間と資金の中で最適な成果を出すためには、マネジメントをする人の「人間力」が必要です。経営ビジネス学科において、都市マネジメントを研究・教育する意味はそこにあると思っています。

また、都市づくり・まちづくりは将来に夢をつなげる「楽しい」取り組みです。した

がって、私は、都市づくり・まちづくりに関わる人は日常生活を楽しんでいる事が大切だと思っています。

都市マネジメント研究室（ひと・まち・けん）では、まちづくりに携わる者として、「人間力（＝多くの人と協力してみんなの夢を実現するために行動できる力）」を高めることを目指します。そのために、学生の皆さんと「楽しく」研究活動を実施するとともに、私自身も学生一人ひとりも生活を楽しむことを目標としています。

なお、都市計画・まちづくりには必ず「現場」があり、「現場」で使われることが前提であると考えています。「現場から学び、現場に還元する。」という鉄則を守り、研究室での研究成果はすべて、研究対象の現場に報告し、今後のあり方を提案していくことが都市マネジメント研究室の役割であると自負しています。

したがって、大学が立地する飯塚市を中心に九州内を研究対象として、地域密着型の取り組みを実施していきたいと思っています。

都市マネジメント研究室は出来たばかりですが、以下の研究テーマを中心に活動していきたいと考えています。

1. 高齢者住宅の供給上の特徴と課題について

福岡県及び全国平均を上回る高齢化率の飯塚市において、サービス付き高齢者向け住宅を中心とした高齢者住宅の供給状況とその特徴および課題を整理・分析し、今後の住宅供給のあり方を考察したいと思っています。

2. シティ・プロモーションと中心市街地活性化のあり方について

飯塚市が「学生のまち」として広く認知されるメリットと中心市街地活性化への効果を考察するとともに、学生のまちとして認知されるために必要な方策の検討・提案を実施したいと思っています。

3. コミュニティ・ビジネスの効果と展開可能性について

地域福祉や地域振興等の視点から、地域主体の活動の状況とあり方を考察し提案したいと思っています。また、飯塚市をモデルにして、地域包括ケアシステムを考慮したコミュニティ・ビジネスの展開可能性について考察したいと思っています。

これらの取り組みを学生の皆さんとともに、積極的に現場に出て（フィールドワークを実施し）、地域にとつて役に立つ成果をひとつでも多くまとめていきたいと思っています。

取り組み過程において、関連する分野の先生方のご協力をお願いする機会もあると思いますので、ご指導・ご鞭撻頂きます様、宜しくお願い致します。